

管理栄養士と理学療法士の連携によるアルツハイマー型認知症合併糖尿病患者の療養指導
医療法人盡誠会宮本病院 機能訓練室 羽生友子

【目的】認知症合併糖尿病患者の食事療法と運動療法の併用による、血糖コントロールとADL向上への効果を検討すること。

【症例】80代女性。BPSDが出現し、過栄養による肥満の進行及び、身体機能と活動量が低下した。間食の過剰摂取や病院食内容など食に対する希望が多く、本人・家族に対して栄養指導を行った。運動療法では目標に沿った運動強度を調整して、床上・座位での運動を主として行った。

【結果】88病日後、体重(kg)76.3→70.3、BMI(kg/m²)31.7→29.3、HbA1c(%)7.3→7.0、N-ADL(点)17→31に改善した。間食内容の改善など食の意識変化も見られ、生活活動は活性化し施設へ退院した。

【結語】認知症合併糖尿病患者に対する食事療法と運動療法の併用により、HbA1cとADLが改善した。それに伴いBPSDの改善や生活意欲の向上も認めた。認知症合併糖尿病患者への療養指導は管理栄養士・理学療法士の連携が重要であることが考えられた。